

富山県花と緑の祭典2020

第48回

花と緑の大会

と き 令和2年10月14日(水)

ところ 富山県民会館

身をかがめ 四つ葉を探した 帰り道



標語 小矢部市立大谷中学校2年 杉森 陽月
画 富山県立富山高等支援学校2年 沓掛 友希

令和2年度 花と緑のコンクール 最優秀賞

公益財団法人 花と緑の銀行

富山県花と緑の祭典2020

第48回 花と緑の大会次第

I 開 会

II 知事（名誉会長）あいさつ

III 花と緑の功労者表彰 1～5

1 富山県環境部門県土美化分野緑花功労表彰

2 公益財団法人花と緑の銀行理事長表彰

IV 花と緑のコンクール表彰

1 花と緑のポスター原画コンクール 6～8

2 花と緑の標語コンクール 9

3 富山県花のまちづくりコンクール

(1) 学校花壇 10～11

(2) 幼稚園・保育所花壇 12～13

(3) プレミアム花壇 14～15

(4) 一般花壇 16～18

(5) 花の道 18～19

V 来賓祝辞

富山県議会議長

富山県緑花推進県民会議会長

VI 来賓紹介

VII 記念写真

(休 憩)

VIII 花と緑の講演会 20～21

演題 「花と緑のまち・浜松」の取り組みについて

講師 浜松市 緑政課 花と緑のまち推進グループ長

二橋 浩 司 氏

IX 閉 会

※同時開催 令和2年度 富山県花と緑のコンクール入賞作品・写真展示

Ⅲ 花と緑の功労者表彰

1 富山県環境部門県土美化分野緑花功労表彰

いけ たに こう じ
池谷 耕二（富山市）

平成11年にグリーンキーパーに就任し、平成27年からは頭取及び「清水町地区花と緑の会」の会長として、地域の緑化活動に取り組んでいる。地区の花壇整備に積極的に参加するほか、近隣保育所等に助言を行うなど、地域の緑化に貢献している。

どう だ しょう み
堂田 正三（高岡市）

平成14年にグリーンキーパーに就任し、平成20年からは頭取として、中田地区の緑化活動に取り組んでいる。中田地区花と緑の推進協議会会長として、地区のリーダーを務めるほか、花苗の育成・配布を行うなど地区の緑化や普及啓発に貢献している。

はやし さと こ
林 智子（高岡市）

平成7年にグリーンキーパーに就任し、中田地区の緑化活動に取り組んでいる。中田地区花と緑の推進協議会幹事として、リーダーシップを発揮するほか、積極的な花壇造成・緑化活動を通して、緑化の普及啓発に貢献している。

ふる せ あつ こ
古瀬 厚子（南砺市）

平成5年にグリーンキーパーに就任し、福野南部地区の緑化活動に取り組んでいる。地区内4か所の花壇の管理指導や整備を行い、市・県を問わずコンクールで優秀な成績を残すことで、地域の緑化活動の活性化に貢献している。

もと たに ふ み お
本谷 二三夫（南砺市）

平成14年にグリーンキーパーに就任し、城端地区の緑化活動に取り組んでいる。花壇の維持管理や花苗の育成・配布を行うほか、さくら守として桜の普及啓発や保存にも携わり、緑化の普及啓発に貢献している。

くろ べ し りつ う な づきしょうがっこう
黒部市立宇奈月小学校（黒部市）

平成18年に4小学校の統合により開校して以来、毎年、児童が主体となって花壇づくりに取り組んでいる。花壇のテーマ決めや植え付け・維持管理を行うほか、「宇奈月花とみどりの少年団」の活動を通して、児童への緑化の普及啓発にも貢献している。

2 公益財団法人花と緑の銀行理事長表彰 (個人の部)

なか だ かず お
中田 一夫 (富山市)

平成6年に船峯地方銀行のグリーンキーパーに就任し、その後平成18年から令和元年まで14年間頭取も務め、地域の緑化推進に尽力している。

主な活動拠点である船峯ふれあい花壇では、花の植栽や維持管理を船峯保育所や町内老人会と協力して行い、市や県のコンクールで入賞するなど、緑化活動の成果を上げている。

しん むら てる こ
新村 輝子 (富山市)

平成16年から桜谷地方銀行の頭取として、県道7号富山八尾線沿いのキバナコスモス播種や、桜谷小学校・桜谷保育園へのチューリップ球根の配布等を通じて、地域の緑化推進に尽力している。平成26年から富山市花と緑の連合協会の理事を務め、「富山市花いっぱいコンクール」の審査を行うなど、富山市全域の緑化推進に貢献している。

きた ひで お
北 秀雄 (高岡市)

平成9年から佐野校下花と緑の推進員として、また、佐野地方銀行のグリーンキーパーとして地域緑化に尽力している。佐野地区花の愛好会では副会長として会を引率し、ビニールハウス7棟を設置して花苗の育成を行うほか、ハウス周囲の除草、冬季の除雪などにも積極的に取り組み、会員の模範となっている。

あと じ こう きち
跡地 孝吉 (高岡市)

平成10年に下関校下花と緑の推進委員会会長に就任して以来、地域の緑化推進に尽力している。平成19年から下関地方銀行のグリーンキーパーに、平成24年から頭取に就任し、「まちなか」での花いっぱい運動の指導者として、県道沿いにプランターを設置し花飾りを進めるほか、町内向けに寄せ植え教室を開催するなど、緑化意識啓発にも貢献している。

じん だい きょう こ
神代 恭子 (高岡市)

平成3年から野村公民館前花壇の世話を努めているほか、平成8年には野村校下で初めてプラグ苗作りに挑戦し、温室がない中での難しい温度管理に工夫をこらしてきた。

平成16年から野村地方銀行のグリーンキーパーに就任し、上石瀬ふれあい花壇の維持管理に携わるなど、地域の緑化活動に貢献している。

さ えき たけ こ
佐伯 武子 (射水市)

平成17年に作道地方銀行のグリーンキーパーに就任して以来、土壌づくりに始まり、水やり、草取り、秋の撤去まで年間を通して活動し、指導的役割を担っている。

活動拠点の津幡江ふれあいカダン愛好会花壇で長年にわたり花壇づくりに率先して取り組み、地域を花と緑でいっぱいにする活動に貢献している。

ほり かわ ふみ お
堀川 文雄 (射水市)

平成21年に大島地方銀行のグリーンキーパーに就任して以来、土田町内会の地域緑化のリーダーとして尽力している。

活動拠点の土田自治会フラワーロードでは、県のコンクールで何度も入賞するなど大きな成果を上げている。

いけ だ とも ぞう
池田 友三（射水市）

平成19年に太閤山地方銀行の頭取に就任して以来、太閤山地域の緑化指導者として花と緑の推進に尽力している。活動拠点の歌の森運動公園西側広場花壇では、花壇づくりに率先して取り組むなど、地域を花と緑でいっぱいにする活動に貢献している。

なが はら し づ こ
長原 志津子（射水市）

平成16年に大門地方銀行のグリーンキーパーに就任して以来、地域の緑化指導者として緑化推進に尽力している。大門なでしこ会に所属し、地区の防災広場花壇や総合会館前花壇、特老ホームこぼし園花壇などで長年にわたり維持管理を行い、地域を花と緑でいっぱいにする活動に貢献している。

かわ さき りょう こ
川崎 涼子（魚津市）

平成16年から上中島地方銀行のグリーンキーパーとして地域緑化の推進に尽力し、また、上中島花未来教室にも所属し、公民館での寄せ植え教室の開催にも協力している。公民館や神社にフラワーポットを設置するなど、年間を通して花を楽しめるよう維持管理を行っている。

すみ よし ひで お
住吉 英男（魚津市）

平成16年に大町地方銀行のグリーンキーパーに就任して以来、地域緑化の推進に尽力している。角川八幡橋付近のポケットパークにある花壇の維持管理をはじめ、町内の雑草刈りを率先して行い、地域の緑化整備に貢献している。

もり せつ こ
森 節子（氷見市）

平成16年に窪地方銀行のグリーンキーパーに就任して以来、活動拠点である布尾山古墳入口花壇の維持管理を行い、地域の緑化推進に尽力している。また、地区の小学校で花の植栽や育成方法について指導を行い、緑化意識の啓発に貢献している。

せき しげ のぶ
関 重信（氷見市）

平成13年に八代地方銀行のグリーンキーパーに就任して以来、地域の緑化活動を牽引してきた。吉滝地区の沿道にシバザクラを植栽し、「路傍花壇」として造成するなど、地区の緑化推進に貢献している。

うえ の ひで お
上野 秀夫（氷見市）

平成16年から速川地方銀行のグリーンキーパーに、平成21年から平成31年3月までは頭取として、地区の緑化活動を支えてきた。地区の保育園や児童館に花の植栽方法や育成方法の指導を行い、緑化活動を通して地域の活性化に貢献している。

もり こし み ち こ
森越 美智子（氷見市）

平成15年に十二町1区地方銀行のグリーンキーパーに就任して以来、海津地区でプラグ苗の育成、花苗配布を通じて緑化推進活動に尽力している。地域花壇の維持管理や新規花壇の造成に携わり、精力的に緑化活動に貢献している。

おし だ くに よし
押田 邦義（黒部市）

平成19年から田家地区のグリーンキーパーに、平成28年から頭取として、地域花壇の管理やプラグ苗の育成に尽力している。地域緑化推進のリーダーとして、地域花壇への花苗や球根の配布を行うほか、学校花壇への助言や技術の伝達を行い、緑化意識の啓発に貢献している。

みや の ひろ こ
宮野 裕子（砺波市）

平成15年に高波地方銀行のグリーンキーパーに就任し、その後、平成22年から9年間頭取も務め、地区の緑化活動に積極的に参加し、地域の緑化推進に尽力している。地域花壇の維持管理だけでなく、自宅の個人花壇も県の推進モデル花壇となるなど、地域の模範となっている。また、3世代交流事業として、高波児童クラブ会員の親子とともに花苗の植え込みを行い、地区コミュニティの場を創出している。

まつ うら たけ とし
松浦 武利（砺波市）

平成2年の東般若花と緑の推進協議会発足以来、地区の緑化活動に積極的に参加し、地区花壇の管理等緑化推進に尽力している。平成7年に東般若地方銀行のグリーンキーパーに就任し、地区公民館の行事等で寄せ植えや門松作りの講師としても活躍している。

た ばた こう ぞう
田端 幸三（砺波市）

平成14年から油田地方銀行のグリーンキーパーに、平成25年から頭取として、地域の緑化推進や技術指導に尽力している。緑化活動の中心となる油田自治振興会館前の「ふれあい花壇」では、自治振興会、長寿会及び婦人会の協力を得ながら維持管理を行っており、市や県のコンクールで複数回上位入賞するなど、成果を上げている。

たか はし のぶ こ
高橋 延子（小矢部市）

昭和63年から地区公民館主事・指導員を歴任し、公民館・保育所運動広場の各種花壇を長期にわたり管理している。平成11年に荒川地方銀行のグリーンキーパーに就任し、銀行の書記・会計として会の維持運営にも尽力している。

はし づめ ただ のり
橋爪 忠則（南砺市）

昭和59年から福野支所東部地方銀行のグリーンキーパーに、平成25年から頭取として、福野地域だけでなく高岡の戸出地域などでも緑化指導を行っており、県内の緑化推進に尽力している。平成18年には旧福野町で「花と緑のフェスティバル」を立ち上げ、以降、毎年中心となって運営に携わっている。南砺菊まつり事業においてもまとめ役として活躍している。

か とう みやこ
加藤 都（南砺市）

平成22年に広瀬館地方銀行のグリーンキーパーに、平成26年から頭取として、祖谷、小坂、館に花苗を配布し、各公民館に植栽するなど地域緑化に尽力している。平成24年には広瀬館保育園跡地に花壇を作り、福光支所花壇コンクールで毎年入賞するなど、市や県のコンクールでも成果を上げている。

いし さき ふ さ こ
石崎 婦佐子（南砺市）

平成19年に福野支所北部地方銀行のグリーンキーパーに就任して以来、地域花壇の維持管理に率先して取り組むほか、花と緑のフェスティバル実行委員として、福野地域の緑化推進に尽力している。活動拠点である「北部ふれあい花壇」では、県のコンクールで優秀賞を受賞するなど成果を上げている。

みや もと こ
宮本 ゆみ子（南砺市）

平成12年に福野支所西部地方銀行のグリーンキーパーに就任して以来、地域花壇造成で活躍し、地域緑化に尽力している。活動拠点である「桐木花の道」は県のコンクールで複数回、上位入賞し、プレミアム花壇となるなど成果を上げている。

あさ の そと え
浅野 外枝（上市町）

平成14年に南加積地方銀行のグリーンキーパーに就任して以来、地域花壇の造成に積極的に参加し、また他のグリーンキーパーの指導育成に貢献している。毎年出展しているコンテナガーデンコンテストでも率先して活動し、メンバーからの信頼も厚い。

ど い き み こ
土井 君美子（立山町）

平成15年に五百石地方銀行のグリーンキーパーに就任して以来、地域花壇・プランターの維持管理や緑化活動の指導を行うなど、地域緑化に尽力している。五百石公民館花壇を活動拠点とし、地域の幼稚園児と一緒に花苗を植栽し、育成した花を提供するなど、子供達との交流を通じて緑化意識の啓発に貢献している。

ふな はし たかし
舟橋 崇（立山町）

平成21年に利田地方銀行のグリーンキーパーに就任して以来、地域花壇の維持管理や緑化活動の指導など緑化推進に貢献している。利田公民館花壇を活動拠点とし、花苗の定植や植え替えにあたり、土づくりや花壇整備に尽力するなど、花壇づくりの中心的な役割を果たしている。

なか じま けい こ
中島 啓子（朝日町）

平成23年に泊二区地方銀行のグリーンキーパーに就任して以来、地域花壇の維持管理や地域の緑化推進に尽力している。活動拠点となる「あいの風とやま鉄道泊駅前花壇」及び「あさひ総合病院花壇」を通じて、多くの地域の方々に安らぎを提供している。

（団体の部）

しんじょうきたしょうがっこう ち いき だん たい
新庄北小学校&地域団体（富山市）

平成22年の新庄北小学校開校以来、新庄北社会福祉協議会や新庄北地方銀行頭取、グリーンキーパーを中心とする地域団体と共に、123mの花壇づくりに取り組み、地域緑化に貢献している。活動を通して小学生と地元のつながりや地域団体の相互の交流を図り、地域の活性化に貢献している。

よし ずみ じ ち かい
吉住自治会（高岡市）

昭和53年に自治会公園が整備されたのを機に、翌54年に吉住自治会花壇が整備され、以来40年間維持管理が続けられている。当初は、老人会が維持管理を担ってきたが、平成15年からは自治会が中心となり、公民館、児童クラブ、頭取・グリーンキーパー、花と緑の推進員など各種団体からも多くの人が参加して、育苗・植え付け作業等を行っている。長い活動の下で、市のコンクールでも多数の入賞を取めるなど、地域の牽引的な役割を担っている。

いで かい
出わかば会（魚津市）

長年にわたり国道8号線・出交差点付近の植栽管理を地区の有志とともに行っている。交差点の安全性への配慮や長く楽しめる花を選定するなど、細やかに気配りされた植栽により、通行者や地区の方々を和ませている。

で まち はな みどり すい しん きょう ぎ かい
出町花と緑の推進協議会（砺波市）

2箇所の地域花壇とチューリップ公園内にある「夢花壇」の維持管理を通して、地域緑化に尽力している。市立砺波総合病院前、出町中学校グラウンド横にある地域花壇は、地域住民に安らぎと親しみを与えており、緑化推進や普及に貢献している。

Ⅳ 花と緑のコンクール表彰

1 花と緑のポスター原画コンクール

最優秀賞



富山県立富山高等支援学校2年

沓掛 友希

優秀賞



入善町立入善中学校3年

舟本 真穂

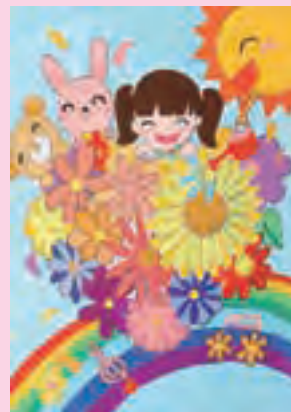
優秀賞



氷見市立南部中学校2年

中村 早希

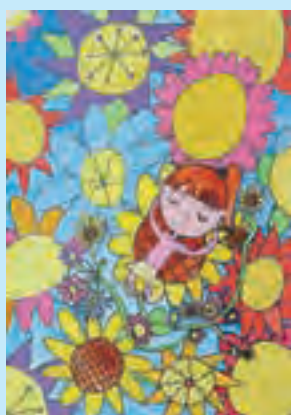
優秀賞



南砺市立吉江中学校3年

田中 乃愛

優良賞



上市町立上市中央小学校2年

廣田 蘭



高岡市立南条小学校2年

大井 咲和



南砺市立福野小学校4年

安宅 柚稀



氷見市立窪小学校6年

阿尾 栄輝



富山市立堀川中学校1年

田島 希美



富山県立富山北部高等学校1年

桃井 響



佳 作



黒部市立桜井小学校1年
鈴木 紗矢



滑川市立西部小学校1年
坂東 遥斗



高岡市立定塚小学校1年
土居 樺奏



射水市立新湊小学校2年
塩谷 日茉理



高岡市立下関小学校2年
細池 彩華



高岡市立国吉義務教育学校2年
山田 冬和



南砺市立福野小学校2年
江田 美鈴



黒部市立たかせ小学校3年
岸岡 愛歩



氷見市立比美乃江小学校3年
谷井 知歩



小矢部市立石動小学校3年
小森 駿



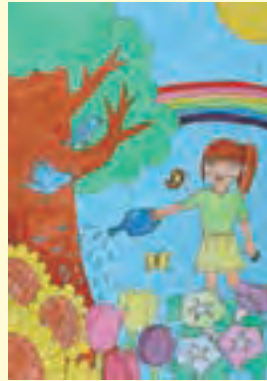
砺波市立庄東小学校3年
大澤 嘉斐



立山町立立山中央小学校4年
石村 花音



黒部市立若栗小学校5年
荒崎 柚奈



滑川市立西部小学校5年
川口 明純



砺波市立砺波東部小学校5年
藤田 真央



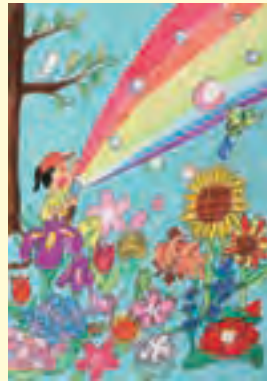
砺波市立庄川小学校5年
中島 陽菜



砺波市立庄川小学校5年
横井 紗瑛



南砺市立福野小学校5年
吉井 心春



朝日町立さみさと小学校6年
平坂 心麦



入善町立桃李小学校6年
水島 呼音

佳 作



高岡市立横田小学校6年
松井 志歩



高岡市立南条小学校6年
酒谷 優衣



南砺市立福光東部小学校6年
中島 優美菜



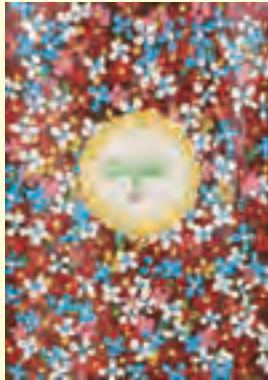
高岡市立志貴野中学校1年
近藤 天音



高岡市立牧野中学校1年
紺谷 桃実



入善町立入善西中学校2年
飯野 瑞葵



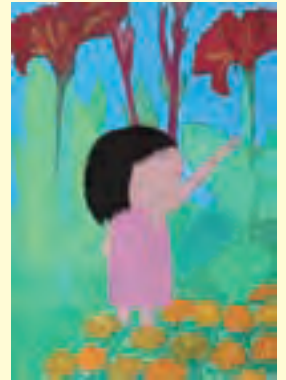
黒部市立清明中学校2年
園家 由花香



黒部市立清明中学校2年
和田 仁心



富山大学人間発達科学部
附属中学校2年
岡田 悠煌



射水市立新湊南部中学校2年
板倉 京花



南砺市立吉江中学校2年
今井 希



入善町立入善中学校3年
大森 恭子



入善町立入善中学校3年
中瀬 智哉



黒部市立清明中学校3年
江口 美優



富山県立富山北部高等学校1年
尾近 宝

総 評

コロナ禍にもかかわらず、たくさんの応募がありました。子供たちの作品に寄せる熱い思いが伝わり、感動しました。

最優秀賞受賞作品の評

パッと目に飛び込む色彩の強さと、様々な花や生き物などのバランスの良い配置が素晴らしい。作者の心の中の物語が語りかけてくるようで、調和のとれた夢や空想の世界を感じさせます。

物の観察、色の塗り方も丁寧で、集中して仕上げられた作品であることが分かります。

(審査委員長 米田雪子)

2 花と緑の標語コンクール

最優秀賞

身をかがめ 四つ葉を探した 帰り道

小矢部市立大谷中学校 2年 杉森 陽月

優 秀 賞

おはなみて えがおもさくよ つうがくろ
小さな芽 いつか大きな 森になる
ま法だな 一つの花で いい気ぶん

朝日町立さみさと小学校 1年 寺崎 焰葉
立山町立立山中央小学校 5年 幾島 莉呼
高岡市立戸出西部小学校 6年 澤田 優花

優 良 賞

はながさき ぼくのかおにも えがおさく
守らなきゃ 緑のたねを 未来へと
花のたね 願いをのせて 飛んでゆけ
友達と きよりのちぢまる 花ばたけ
通学路 気持ち上がる 花の道
しおれても 生きようとする花を見て
負けられないと歩きだす

朝日町立あさひ野小学校 1年 鍛冶 瑛人
朝日町立さみさと小学校 4年 岩田 采花
富山市立萩浦小学校 4年 吉田 百花
朝日町立さみさと小学校 6年 加藤 咲奈
高岡市立戸出西部小学校 6年 森岡 隆人
小矢部市立大谷中学校 3年 前田 啓彰

佳 作

まあだかな お花のえがお まあだかな
空気がおいしいりゆうを知った
みどりとは花は 大切なんだ
緑はね きれいな水と 生きている
この地球 花と緑で いっぱいに
冬越えて 「初めまして」の 花ひらく
種をまき 地球にドレスを 着せましょう

朝日町立さみさと小学校 2年 神前 美緒
魚津市立道下小学校 2年 水野 光
朝日町立さみさと小学校 3年 勝田 蒼空
黒部市立清明中学校 1年 弥忠田煌希
小矢部市立大谷中学校 2年 出合 真輝
小矢部市立大谷中学校 3年 伊藤 丈翔

総 評

世の中が揺れ動いたコロナ禍の中でも変わらぬ自然の営みから、負けない心や明日への力などをとらえた作品が多く見られました。

自分の心が引かれたことを書きとめ、そのわけを考え、口ずさみながら言葉を並べ替えてみると、思いが伝わるようになります。そのことを通して、気の重いことも軽くできることがあります。

花や緑、言葉、人の感じ取る力などの美しさやすばらしさに大いに感動しました。



最優秀賞受賞作品の評

リズムカルで分かりやすい言葉から、思いがしっかりと伝わってきます。毎日の生活ではすべてがうまくいくわけではありません。くよくよすることもあります。でも、そうした思いにこだわり続けることなく、四つ葉のクローバーを探す中で自分の気持ちを整理し、前を見ていることが分かります。作品を味わう者も、ほのぼのとした気持ちになります。

(審査委員長 山本 晶)

3 富山県花のまちづくりコンクール

(1) 学校花壇

最優秀賞



高岡市 成美小学校

優秀賞



射水市 塚原小学校



富山市 大沢野小学校



富山市 船嶺小学校

優良賞



射水市 作道小学校



氷見市 湖南小学校



高岡市 川原小学校

奨励賞



砺波市 鷹栖小学校

奨励賞



砺波市 庄東小学校

努力賞



入善町 飯野小学校

総 評

6月までは、乾燥の日々、7月には長雨が続き、梅雨のさなかの審査でした。

新型コロナ感染防止から異例の休校が続いた小学校で、いつものように花壇は作られるのだろうか。そんな不安をよそに、参加校では子供たちや職員の熱意に支えられて、彩り豊かな花々が育っていました。赤紫が美しいハゲイトウ、深紅のサルビア等、地域の花がシンボルのように生育し、周囲の植物と色合い、高低の変化などが見事でした。白い花も印象的でした。

それぞれの学校では子供たちが関わり、テーマを設けて花壇が作られていました。花壇作りを総合的な学習の時間に位置付け、花壇の植物を学習に生かす単独学年での取り組みもありました。また、休校のため、子供たちを待ちながら職員や地域のグリーンキーパーの協力で「土づくり」を行った学校が複数ありました。畝を作って苗を育て世話をしやすくし、成功している学校もありました。花がよい状態にあるための切り戻しは不可欠で、遅れないようにと指摘した学校もありました。

5月中旬に植栽した学校では、職員と地域の方々とが協力し、分散登校時に子供が参加するという工夫がみられ、6月から植栽した学校では、これからの育ちが期待されました。花壇づくりで子供たちの笑顔が増え、学びが重なりますよう、その活動を通して保護者や地域の方々とのかかわりが一層豊かなものになるようにと願います。

最優秀賞評

「新型コロナウイルスにも負けず、明るく元気に、そして笑顔になる花壇をつくろう。」を花壇テーマにして取り組んだ高岡市立成美小学校が受賞しました。

成美小学校は、毎年、学年ごとにテーマを決めて取り組み、過去には農林水産大臣賞を受賞したことがある学校です。学校花壇に寄せられた願いや期待に、伝統の力を感しました。その力は、子供たちに育まれた力であり、教職員に培われた力であるように感しました。デザインは前年度に募集し、オリンピックにちなんだものに決めていたそうです。

コロナウイルス感染予防のため休校が続く中、4月の日曜日には、保護者と教職員による土づくり、植栽は5月15日に教職員全員で行ったそうです。各学年の花壇は、「きらきらなかよし1年生」「なかよしフラワー」「笑顔いっぱい花壇」「カラフルにじ色花壇」「みんな笑顔のきらきら花壇」「スマイルいっぱい花壇」とテーマを決め、学年が中心になって育てています。

今年は以前からあるトーテムポールの色を塗りなおし、新型コロナに負けないようにと魔除け効果を狙ったといいます。学年で育てている朝顔も効果的に配置し、花壇に変化を持たせ、常緑の柘植の木との調和もよく考えられています。2年生は学年花壇で摘んだマリーゴールドの花を野菜畑に持って行って虫よけに使っているということでした。栽培委員会の子供たちは、予備苗をプランターに育て、フラワーロードとしています。予備苗を育てておくのは、今までの花壇づくりで獲得した知恵です。

新型コロナ禍にあって、これまでに培った財産を生かした花壇づくりが見事になされていました。生き生きと育った花々が、コロナに負けない元気を周囲に与えてくれていました。その花々の前で、子供たちが花壇づくりの楽しさを、自信を持って語ってくれたことに心が動かされました。



(審査委員長 五十嵐俊子)

(2) 幼稚園・保育所花壇

最優秀賞



富山市 岩瀬保育所

優秀賞



氷見市 速川保育園



優良賞



富山市 西田地方保育園



富山市 老田保育所



高岡市 成美保育園



射水市 小杉西部保育園



総 評

本年度はコロナ感染予防の為、花壇作りにかける人員や時間が取れない中での作業は大変だったことと思います。しかし、どの花壇もイキイキとしており、子供たちはもちろん送迎時の保護者、地域の方々の癒しの場になったことでしょう。

花を収穫（花摘み体験）してアレンジメントを作ったり、花をすりつぶしての色水遊びなど、新たな体験をし、花壇を通じて園児たちの豊かな情操が育まれていく大きな役割を果たしているように感じました。

なお、今回は、最優秀賞と優秀賞の花壇が甲乙つけがたく、最後まで審査に苦慮しました。来年も期待しています！

＊星型の涼しげな花を咲かせる「イソトマ」には、アルカロイド系の有毒物質が含まれており、葉や茎を傷つけた時に出る乳液により、皮膚が弱いとかぶれたり、目に入ると失明の恐れがありますので、植える場所、手入れには十分注意しましょう。



最優秀賞評

最優秀賞となった岩瀬保育所は、玄関前の大きな松の根元に宿根植物と一年草が植えられた花壇は鮮やかで、その前のプランターにはポートルムの絵が取り付けられ、登所する子供たちを迎えていました。その横のエントランスには、手作りの曳山車の花台や、漁船や引き網を模したグリーンカーテンがあり、より一層登所するのが楽しみなことでしょう。

咲き終わったヒマワリにも目口を取り付け、30年ほど前に流行った「フラワーロック」に似ていて、今にも踊りだしそうで元気いっぱいでした。他にも、ハツユキカズラを「トトロ」に変身させたり、ペットボトルのハンギング、野菜(芋)の袋栽培など、見どころ満載の花壇でした。



(審査委員長 館 睦美)

現地審査のひとコマ



審査日：7月16日～8月4日

左上：川原小学校 中上：岩瀬保育所 右上：水戸田モデル花壇
左下：桐木花と緑の推進協議会 中下：太田福寿会 右下：北部花緑愛好会

(3) プレミアム花壇

最優秀賞



砺波市 五ヶみちグループ

優秀賞



富山市 寺崎 啓乃



富山市 八尾園ふれあい花壇



射水市 小杉花作り同好会



砺波市 梅檀山花と緑の推進協議会



南砺市 梅ヶ島フラワー街路の会



優良賞



砺波市 高波花と緑の推進協議会



南砺市 桐木花と緑の推進協議会

総 評

今年は、新型コロナウイルスの感染防止対策を取りながらの花壇づくりのため、例年通りに計画することが難しくご苦労があったことと思います。また、六月は高温、七月は長雨が続き日照不足となりましたが、審査対象の8花壇は長く上位に入っていただけあって、どの花壇も様々な工夫があり栽培管理をしっかりとされていました。

個人花壇と団体で管理する花壇では規模の違いはあるものの、植栽デザインや活動の取り組みが目的通りに達成され、レベルの高いものになっていました。中でも花壇を見せるだけではなく、子供たちにフラワーアレンジの材料として提供し楽しんでいただく、というほほえましい事例もありました。今後は切り花にした際に毒性のある花について認識し、伝えながら取り組むこともあわせて期待したいところです。

「プレミアム花壇部門」では時代の変化に対応しながら、継続と挑戦、そして花を育て楽しむ心を惜しまないエネルギーが必要であると感じました。8つの花壇は優劣を付けられるものではなく、富山を代表する花壇として位置付けることが大切です。富山独自の花壇づくりを未来に継承するためにも、長年の経験によって得られた各地域の花壇が持つ高度な栽培技術・デザイン手法をまとめ、県内の皆さんに公開できる仕組み作りを構築する時期にきています。



最優秀賞評

「五ヶみちグループ」は昨年に引き続き2度目の受賞となりました。昨年同様、栽培、デザイン、地域の活動ともに総合的に評価されました。県道沿いを通る車から眺めることを前提としているため、鮮やかで元気になる花色、そして連続性のあるデザインになっていました。後列に青色のアガパンサスを列植し、中列に青色のサルビア・ファリナセア、前列に赤・橙色・黄色のポチュラカを混植し色彩デザインも良く考えられていました。

今年は新型コロナウイルスの終息を願う看板を設置し、道行く人々にメッセージ性をもった花壇であったことも受賞の決めてとなりました。また、疫病退散の願いを込めた「アマビエ塗り絵」を子供たちに塗ってもらい、それを花壇に組み入れたことは地域全体の取り組みとして高く評価されました。

今後の課題は、モミガラ堆肥をマルチングとして一年草花壇に多用することで植え替え時にすき込まれた後に起こる土壌障害について検証する必要があると思われます。



(審査委員長 渡邊 美保子)

(4) 一般花壇

最優秀賞



射水市 市井モデル花壇

優秀賞



高岡市 醍醐公民館花と緑の推進部会



南砺市 北部花緑愛好会



砺波市 南般若花と緑の推進協議会



入善町 花と緑の銀行 棚山地方銀行



小矢部市 北蟹谷花と緑の友の会



富山市 文京町公園愛護会

優良賞



南砺市 玉成花壇愛好会



射水市 浅井きらりガーデン



射水市 水戸田モデル花壇

優良賞



砺波市 東野尻花と緑の推進協議会



富山市 上堀駅を愛する会



氷見市 一畑花壇愛好会

奨励賞



砺波市 般若緑花推進協議会



高岡市 石代高砂会



南砺市 広瀬館花と緑の楽園

努力賞



小矢部市 福上花愛好会



氷見市 藪田地方銀行



総 評

新型コロナウイルスの影響が心配されましたが、その懸念を払拭するかのごとく、今年的一般花壇は例年以上にレベルの高い花づくりが展開され、審査員をとて悩ませる結果となりました。活動の発展性のもとより、花の足元を素敵に整えたり、花壇の周辺にも気を配るといった、ちょっとした管理の差が評価に影響するほど、とても激戦でした。

全体としては、地域の歴史や景観を活かした迫力のあるデザインやきめ細かな花の選択、木や竹を活用し随所に工夫が凝らされた花飾りなど、とても個性的な花壇が多かったことが印象に残りました。また、土づくりが徹底されていることに加え、早めの花がら摘みや切り戻しを行い、まず、体づくりを優先した花壇で、勢いのある色鮮やかな花が咲き誇っていたことも感動的でした。

一方、7月の記録的な長雨の影響を受け、思うように育たなかったり、病気が発生したり、とても苦労が多かったことも聞きました。特に、完熟していない堆肥を施用した花壇で影響が大きかった様でした。そんな条件下においても、しっかりと畝立てをして植え付けられた花壇では、みごとに咲き揃った花が見られ、気象に左右されない花壇づくりのための基本技術の大切さを、改めて学ばせていただきました。

活動・取り組みでは、コロナ対策としてマスクを付けた上で除草や花がら摘みを行うなど、まずは安全確保に努められました。地域のすべての組織を結集させて、緻密な作業計画のもとに管理作業を徹底する力強い活動や、花を愛する仲間が集まって、和気あいあいと楽しみながら管理を続ける団体などさまざまで、これまでの長い取り組みで培われた、本県の花のまちづくりの多様さと底力を感じました。

最優秀賞評

「市井モデル花壇」の第一印象は、花々の生育がとにかく旺盛なこと、花穂が大きく迫力があること、色鮮やかで迫力満点でした。パーク堆肥を昨年より2割多く施用したり、花の株元を5cmの厚さにマルチするとともに、生育初期から花がら摘みを計画的に実施し、目標の時期に合わせて、赤、白、青のサルビアと真紅のペゴニアを今を盛りと咲き揃える技術の高さに感動しました。また、手前を飾るジニア・プロフェュージョン、奥に背の高いハゲイトウやカンナを配置することで立体感も高められ、周囲のブランコや滑り台などの遊具ともバランスのとれた高度な仕上がりを感しました。さらに、花壇周辺の排水路を竹の枝で覆う工夫も凝らされ、繊細な心づかいも強く印象に残りました。

100歳体操を行って体をほぐしてから管理作業に取り組み、終わった後はお茶をしながら話にも花を咲かせるなど、楽しみながら花壇づくりに取り組むことが長続きの秘訣だと教えていただきました。

(審査委員長 山本 良孝)



(5) 花の道

最優秀賞



小矢部市 野ぎくの会

優秀賞



砺波市 太田福寿会



高岡市 立野栄町花づくり会



富山市 大沢野・上大久保地区
花いっぱいグループ

優良賞



富山市 新庄北小学校&地域団体



南砺市 南部第六福寿会



南砺市 東太美心安らぐ花の道

優良賞



高岡市 下伏間江地域環境保全委員会

優良賞



射水市 櫛田の里 Flower Road

奨励賞



氷見市 柳田活性化推進連絡会

総 評

今年も花壇管理にとっては楽な日々ではありませんでしたが、10か所もの応募をいただき感謝申し上げます。最近花壇に取り組み始めたところから20年を超える取り組みを継続してきたところまで、また花壇の大きさ、立地条件(土壌の違い、水やりの難易等)、取り組み時期等々、改めてそれぞれの地域で努力されていることに感嘆・感謝したところです。審査では、花が生き生きしているか、花壇のデザイン、取り組み状況などを勘案しているのですが、印象的だった事例を紹介させていただきます。

栽培管理では太田福寿会でしょう。道路法面の田んぼ落ち際を利用しており、土づくりと相まって排水も良好で、審査日にはそれぞれの花がその特性を見事に発揮し楽しませてくれました。一角は仏花提供も兼ねており地域との密着ぶりもうかがわれました。

デザインでは大沢野・上大久保地区花いっぱいグループ、立野栄町花づくり会に目を止められました。前者は運動公園につながる道路沿いで前面がゆったりとした植え込みで、後方は土手法面に植栽しており、車上の運転者や朝夕の散歩する人に憩いを提供していることがうかがわれました。後者は幹線道路沿いで花壇の高低差、花の種類、さらに小物の利用など、首肯させられるものがありました。

取り組み状況では、これまでの枠を広げて“地域の住民とともに”という視点が立野栄町では見られ、今後の展開が楽しみです。

車道からの水はねや冠水不良、水不足等、立地、栽培条件の改善と技術向上に努めるとともに、地域との連携をさらに深め、今後の持続的な運営が可能なよう情報交換しながら頑張っていきたいものです。

最優秀賞評

「野ぎくの会」のクロスランドおやベタワー前の花壇は、その400mにはなろうかという規模に圧倒されました。本年は特にコロナ禍の中で人員の配分など苦労が思いやられました。花壇を見ると、その長さに協奏するように花の特徴を生かした配置がされ、途中には高低差を持たせ花の特徴がよく引き出されていました。一部にはワイルドフラワーを取り入れるなど意欲的な取り組みもなされており、奥には背の高いカンナ等を配し、一部にはヤブラン等の宿根草や山茶花等の木本も労力、作業安全を考慮して導入されていました。

タワー上からは一条の花壇に映るのですが、地域における園児から施設入居者までの交流、福祉交流事業との連携、さらには地域の企業との花いっぱい運動の協働など、地域に深く定着した活動の源泉を見る思いがしました。

(審査委員長 提 義房)



<令和2年度花と緑のコンクール審査員>

○ 第46回花と緑の標語コンクール

山本 晶 立田ひろみ 大割範孝 二口 洋 山下大樹 長谷川道隆

○ 第48回花と緑のポスター原画コンクール

米田雪子 山達雅美 平井利枝子 大割範孝 二口 洋 山下大樹 長谷川道隆

○ 第47回富山県花のまちづくりコンクール

五十嵐俊子 越谷なつみ 大井 巖 兼本 正 舘 睦美 矢野 正人 浅井田鶴子
吉田めぐみ 渡邊美保子 中田 政司 十二町 薫 西尾 倫顕 山本 良孝 川崎 弘美
古崎 三夫 村家 直樹 提 義房 石崎 弥佳 高田 敏充 高橋 一臣 山下 大樹
長谷川道隆 (順不同)

Ⅷ 花と緑の講演会

「花と緑のまち・浜松」

～ 推進に向けた取り組みについて ～

浜松市役所 都市整備部 緑政課
花と緑のまち推進グループ長

二橋 浩司

■ 浜松市の紹介

浜松市は、東海道新幹線の東京～大阪のほぼ中間に位置しており、面積は伊豆半島とほぼ同じ大きさであり、長野県諏訪湖に端を発する天竜川、その中流域の急峻な中山間地、扇状地に広がる平野部、河岸段丘の三方原台地、そして、浜名湖から太平洋の沿岸部によって構成されています。

年間の平均気温は14.5℃～16.0℃と全国的に見ても温暖で恵まれた気象条件です。産業は、楽器、オートバイのまちとして知られ、農業においては、ミカンやガーベラ、馬鈴薯、玉ねぎ、お茶、菊など全国有数の生産地としても発展してきました。

また、市域の68%を占める森林は、日本三大人工美林の1つ「天竜美林」と呼ばれ、地域の林業を発展させる重要な役割を果たしてきました。

更に遠州灘や浜名湖では、シラス、アサリ、ウナギ、トラフグなど、豊富な漁業資源を対象とした水産業も営まれています。



■ 花への取り組み

古くは、昭和31年9月設立の浜松花の会から歴史はスタートしました。

以降、様々な市民が花に関する活動を進める中で、平成16年に開催した浜名湖花博をはじめ、モザイクカルチャー世界博など、花や緑に関する大規模な大会が開催され、多くの市民が来場・参加するなど関わりを持つ中で、市民の中には花に対する意識が強くなり、現在は「花と緑のまち・浜松」を目指した市民活動に多くの団体や個人の方々が取り組んでいます。

鍛冶町通りボランティア活動は、年3回の植替え作業を多くの皆さんと共に実施しています。鍛冶町通りは、浜松駅前の大通りです。毎年、5月、9月、12月に通りに設置してある約150基のフラワーポットを地元商店会や事業所の皆さんと一緒に、花飾りをしましょうということで、平成21年からスタートしました。

浜松花と緑のまつりは、毎年秋に開催され、令和元年で第50回目を迎えました。今は秋の都市緑化月間のイベントという位置づけもあり、10月の第3土日の2日間開催し、毎年約3万人近くの市民のみなさんにご来場いただいています。

■ ボランティア活動

浜松市花と緑の連絡協議会は合併後の平成19年に設立し、旧市町村の団体による協議会です。各地区の特徴や活動報告を行い、会員同士の情報交換の場となっているほか、浜松市の花のボランティア団体の代表として、市の活動への参加など、ご協力いただいています。

公共沿道花壇支援は、組織として各種団体には属していませんが、地域の公民館、幼稚園、保育園など、公共施設や社会福祉法人のほか、町の沿道にある小さな花壇などの花植えを支援しています。例年、80～90組織への支援を年2回実施しています。

浜松駅前の企業展示花壇は、浜松駅を市の玄関口ととらえ、多くの来訪者を花でおもてなしする趣旨で、様々な花壇を周辺に用意しています。その一部を企業に展示していただき、ご協力いただく制度です。

浜松市が管理する道路敷地内の公共花壇において、企業が公共花壇の花飾りをするることによって、市民の花と緑に対する意識の高揚を図るとともに、企業との協働による花飾りを進めるものです。

中心部の一等地を舞台として社会貢献活動（CSR）を美しい花と緑でPRできるとして、現在、41ある花壇を、15の企業によって21の花壇を活用していただいています。

■ 花みどりの施設の紹介

- 浜名湖ガーデンパーク
- はまつフルーツパーク
- 浜松市緑化推進センター
- はまつフラワーパーク



■ 官民一体となった取り組み

- 浜名湖花フェスタ
- アメイジングガーデン・浜名湖
- 天浜線花のリレープロジェクト



令和2年度

富山県花と緑のコンクール 入賞作品展

と き 令和2年12月11日(金)～12月23日(水)

ところ 富山県中央植物園 サンライトホール

と き 令和3年2月20日(土)～2月28日(日)

ところ 富山市婦中町 フューチャーシティ ファボーレ



はなびー

令和2年度

花とみどり・ふれあいフェア(予定)

と き 令和3年2月27日(土)～2月28日(日)

ところ 富山市婦中町 フューチャーシティ ファボーレ



令和元年度 花とみどりふれあいフェア



公益財団法人 花と緑の銀行

〒939-2713 富山市婦中町上轡田 42

TEL 076-466-2425 FAX 076-465-5923

<https://www.bgtym.org/fgbank/>

花と緑の銀行だより 217号

～ 第48回花と緑の大会大会誌 ～

発行日 令和2年(2020)10月